

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 10月 12日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520437

研究課題名（和文） 日本・朝鮮資料による言語交渉史研究

研究課題名（英文） A Study on the history of linguistic exchanges using Japanese and Korean materials

研究代表者

辻 星児 (TSUJI SEIJI)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：40108113

研究成果の概要（和文）：

日本と朝鮮は、昔からさまざまな交流があり、多くの歴史的資料が残されている。その中には、日本人が仮名や漢字で朝鮮語を記した「日本資料」、朝鮮人がハングルや漢字で日本語を記した所謂「朝鮮資料」が残されており、これらは、朝鮮語、日本語の歴史を解明するのに貴重な資料である。本研究では、国内外で新しい「日本資料」「朝鮮資料」を発見することができ、両言語の歴史研究に貢献することができた。また、資料の一部はデータベース化し、音訳された語などの分析を行った。さらに、今回の研究によって、両国の交流資料の通史を描くことを試みた。

研究成果の概要（英文）：

Japan and Korea have various exchanges from ancient times, and many historical materials are left behind. "Japanese material" and "Korean material" are a part of them; the former is that Japanese people recorded Korean with kana or kanji, the latter is that Korean people recorded Japanese with hangul or kanji. These are valuable for clarifying the history of Korean and Japanese language. In this research, I discovered new materials, which are helpful in studying the history of both languages. The sources investigated in this research were partially compiled into a database and the transliterated words appeared in them were analyzed. In addition, I tried to describe the comprehensive history of the Japanese and Korean materials.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・歴史言語学

キーワード：朝鮮資料，日本資料，朝鮮語史，日本語史，朝鮮王朝実録，音訳

1. 研究開始当初の背景

(1) 「朝鮮資料」「日本資料」は価値のある言語史資料であるが、埋もれた資料が多くある。

それを発掘し、データベース化し、言語史的に分析することで学界に裨益できる。とくに、『朝鮮王朝実録』に記された漢字表記の日本

語は、これまで研究がほとんど手つかずの状態であったが、本研究代表者が方法論を以前に開拓したこともあり、今回網羅的に研究を進める必要性を感じていた。とくに、この音訳漢字には、ハングル創製以前の14世紀後半から15世紀前半に遡るものも多数あり、優れた資料となることが期待されていた。

(2) 両資料を両国の交流・交渉史の対象と捉え、資料史と言語の歴史を絡めることで、言語交渉史というユニークな通史を描くことができるのではないかという見込みがあった。これは、小倉進平博士河野六郎博士補注の名著『朝鮮語学史』を現代の研究水準に合わせて充実させたいという意図もあった。

## 2. 研究の目的

(1) 「日本資料」「朝鮮資料」を言語交渉史資料として捉え、各資料の収集と言語史的考察を踏まえて、古代より近世に至るまでの言語交渉を総合的、系統的に捉えることを目的とする。とくに、対訳資料をのぞけば、「朝鮮資料」は日本語研究のための資料、「日本語資料」は朝鮮語研究のための資料、という従来の枠組みから脱し、「朝鮮資料」も朝鮮語史研究資料として、「日本語資料」も日本語史研究資料としての価値を持つことを明らかにすることも本研究の目的とする。

(2) 日本および韓国の諸機関が所蔵する言語交流資料を調査・収集し、データベース化するとともに、言語交流史の観点から資料の分析と位置づけをおこなう。従来知られている以上に、埋もれた資料があり、それを発掘することは、言語史研究のみならず文化交流史にも貢献できるものである。

(3) 『朝鮮王朝実録』に記された日本語、『日本書紀』に記された朝鮮語、この両者の解読と分析は未開拓の部分が多い。とくに前者は、研究代表者が独自に開拓した分野である。本研究では、両資料から当該語彙を抽出し、基礎的データをまとめるとともに、とくに前者によって14-15世紀の言語史を明らかにすることを目的とする。

(4) 以上の資料の収集、分析をもとに、日朝言語交流史の包括的な資料史、言語交流史の構築を目指す。

## 3. 研究の方法

(1) 国内外の諸機関に埋もれている「日本資料」「朝鮮資料」を調査し、新資料を発掘する。とくに、地方図書館などにも江戸時代の日本資料が埋もれている可能性があり、その

調査も行う。

(2) 新しい資料をデジタル化（電子テキスト化および画像デジタル化）し、同じ分野での研究者や歴史や文化史の研究者に役立つ形で公開する。同時に、これらの資料に現れた音訳語彙などを分析し、その言語史的位置づけをおこなう。

(3) 『朝鮮王朝実録』に記された日本語語彙については、王朝初期（14世紀後半）から当該語彙を網羅的に抽出し、それを1語1語検討しつつ分析を進める。また『日本書紀』等に見られる朝鮮語語彙の入力化を行い、基礎データを構築する。

(4) 日朝言語交流史の通史を構築するため、従来からの資料や新発見の資料の言語史的な位置づけを行う。最終的には、通史を描く。この場合、資料における全体的な流れと、交渉史の範囲、位置づけ、また文字や訓読の問題など取り込む必要がある。

## 4. 研究成果

(1) 新資料の発見（主要なもの）：

① 韓国成均館大学校尊敬閣文庫所蔵『姜睡隱看羊録』（国尺欄外ハングル表記の日本国名61個。例：播磨 hoarima）。

② 対馬宗家文庫所蔵の漂流記録（「全羅道済州極義県監李種穂一行云々」などにおける仮名書き朝鮮語）。

③ 鹿児島県立図書館旧沈寿官氏所蔵資料（『和館問答』など。複製されていないもの）。

④ 西尾市岩瀬文庫所蔵『六書三国薬名方言考』（仮名書き朝鮮語）、『日観要攷』（音訳日本語）など。

⑤ 福井県小浜市立図書館所蔵『朝鮮事紀』（仮名書き朝鮮語100例余、例「馬モル」；再調査）。

⑥ 蓬左文庫所蔵「享保年中朝鮮人往来記」（仮名書き朝鮮語）など。

その他、従来知られてはいるが、今回新たに所蔵が分かったものとして、西尾文庫所蔵「和韓拾遺」『桑韓筆語』などもある。

(2) これらの資料の一部は、複写、デジタル化し、同じ分野の研究者にも供することができるようにした。また、言語史的分析を行い、時代的な位置づけを行った。多くが近世語の資料であった。

(3) 『朝鮮王朝実録』に記された日本語彙については、同書の解読を進め、当該語彙を抽出し、関連事項も含めて、入力を15世紀まで行った。今回の研究期間内では、太祖4年（1395年）から世宗末年までの400例を1語

1 語分析し、歴史的背景を勘案しながら、日本語を比定していった。この場合、16世紀までの実録資料も考察の対象として分析を進めた。特に固有名詞が多いため、中世日本における名づけ方の研究も参照した。これにより、当時の日本語の「アウ>オー」について注目すべき音訳が見いだされ、音韻史に一石を投ずることができた。例えば「一郎」の「一らう」に当たる部分に（漢字音で）-a, -o, -ao, さらに-oa といった表記が発見されるが、これは、日本語の[ɔ̄]を表記しているものと結論付けた。その他、「右衛門」を yami (餘彌) といった表記が対馬の方言形（エミ）であることを再説し、関連する問題を明らかにすることができた。その他、ハングルによる日本語表記で従来からも問題とされてきたハ行音の表記（両唇性）や前鼻音化表記などが、ハングル創製以前の『実録』資料でも見られ、音訳日本語研究をハングル表記から漢字表記にまで広げることができた。さらに音訳のパターン（用字法）が明らかになった部分もある。以上の分析と結論は、日本語音韻史のみならず、朝鮮語音韻史にも寄与できる点で、日本・朝鮮資料の総合性を浮き彫りにすることができた。

なお、この部分の研究の成果の一部（太祖4年から太祖7年まで）は、論文として公刊した。

いっぽう『日本書紀』についても、延べ数百例の朝鮮語語彙が採集でき、すべてを入力することができた。この成果は、データ集として、研究者に供することができた。

(4)「日朝言語交渉史」通史の構築については、その概要をまとめることができた。概要の一部は、所属大学や東京外大での講義その他で発表した。概要は次のとおりである。

- ①古代語における借用語
- ②「日本書紀」に記された朝鮮語
- ③古代における通訳・言語学習：文字，訓読
- ④中世前期の日本資料：仮名書き朝鮮語
- ⑤中世の朝鮮資料
- ⑥朝鮮王朝初期における日本語教育
- ⑦中世後期（朝鮮王朝初期）の日本資料
- ⑧近世以降の日本資料：朝鮮語／日本語：「捷解新語」などの朝鮮資料を中心に

各資料の概説と歴史的背景、言語史的な位置づけなどが、それぞれの項目で詳説されている。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

### ①著者名：辻 星児

論文表題：「朝鮮王朝実録」に見られる日本語の音訳表記(1)

雑誌名：『文化共生学研究』

査読無

巻：11号

発行年：2012年3月

頁：p.45－p.57

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

辻 星児 (TSUJI SEIJI)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：40108113

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

( )

研究者番号：

( )

研究者番号：

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：